

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう



山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



支部総会報告

- 第30回 山形支部総会
- 第30回 寒河江支部総会
- 第20回 置賜支部総会
- 第12回 庄内支部総会
- 第2回 新庄最上支部総会

食・農部会 第4回「エネルギー学習会」

おらだもエネルギーしてみっか
～エネルギー自由化元年、エネルギーシフトを学ぶのは今!!～

山形同友会！
未来へ向けて、
新たに！！
より地域に
必要な存在へ

第30回山形支部総会

同友会を使いきって次のステージへ進もう！



5月18日、第30回山形支部総会が山形国際ホテルに於いて開催され、58名が参加しました。

冒頭、挨拶に立った阿部支部長は「昨年の総会で宮城同友会の鍋島代表理事より経営者の覚悟と姿勢に対するメッセージを頂いた。重要でも緊急性が低いことには手をつけないが、同友会で学び、そういうことに取り組むことで企業づくりが進んでいきます。いそがしくても同友会に参加し、企業づくりの輪が広がっていくと必ず地域がよくなります。一緒に活動していきましょう」と述べました。

総会議事では、「同友会を使いきれ」をスローガンとして、念入りな事前準備でねらいを明確にした例会づくりと、同友会ツールをフルに活かせる組織づくりで学びの場の充実を図る方針が採択されました。そして、支部長に阿部秀顕氏(再任)、副支部長に伊藤誠氏(再

任)、服部正氏(新)と支部幹事15名を選出しました。

記念講演では、宮城同友会代表理事の五十嵐弘人氏(マルチプライ(株)代表取締役)が「経営指針に基づいた採用と共育～エネルギーシフトと新しい仕事づくり～」と題して講演しました。

1990年に清掃用具の販売する会社として創業。その後、同友会に入会した五十嵐氏は、経営指針書を作成します。以来、経営理念を追求してきました。

同社の清掃用具の販売はビル全体にかかるコストの中で0.1%の割合です。そこからビルを丸ごとワンストップで管理できる会社にするため、エレベーターの保守管理、消防設備、高圧受電設備と事業領域を拡大し、ビルのライフサイクルマネジメントでいくと7割の仕事が出来るようになりました。

そして、東日本大震災から避難・食料・エネルギーの重要性を感じた五十嵐氏は自社で何が出来るかを考え、ビルのエネルギーの自給自足化を図っていくことに方向性を見いだします。中古ビルを活用してゼロエネルギービルに挑戦しています。五十嵐氏は「生活に密着したエネルギーや食糧などは地域で必要なものは地域でつくる地消地産が大切で、エネルギーシフトによってお金を地域に残すことができる。エネルギーシフトは地域づくり」と力強く語りました。

第30回寒河江支部総会

100年後の社会を考えて学び続けよう

5月27日の第30回寒河江支部総会は、ホテルシンフォニーアネックスに於いて行われ、24名が参加しました。

総会では2015年度の取り組みで60名の支部となり過去最高の会勢で総会を迎えることになったことが紹

介され、「学び続ける経営者になろう～会社のため 地域のため 自分のため～」をスローガンに同友会で学び、自社の経営課題を明確にし、解決に向けて取り組んでいく企業づくり・支部づくり・例会づくりの2016年度活動方針が採択されました。

その先頭に立つ役員には支部長に阿部敦氏(再任)、副支部長に齊藤貴裕氏(再任)、井田進一郎氏(新)、穂積勇人氏(新)と支部役員11名が決まりました。

記念講演は福島真司氏(山形大学エンロールメント・マネジメント部教授・大正大学地域創生学部教授)が、「真に地域を支える中小企業家に願うこと～同友会との連携授業と震災復興支援を通して体感した人づくりと学生に選ばれる中小企業の本質～」と題して講演しました。

はじめに福島氏は「選択は人間にとって大きなことで経営者は自分の人生を切り開けるから幸せ。同友会の理念はすばらしい。今後の社会に求められる世のため、人のために徹底的に行っていると思う。苦しい時でもこういう生き方を選んだ皆さんは誇り高い。ぜひ、若い人に伝えてほしい」と語りました。

2010年に始まった山形大学・きらやか銀行・山形県信用金庫協会加盟4金庫・山形同友会との連携による授業では、大人の影響から安定志向が強くなっている学生に、これからを生き抜くのに大切な「前向き・上向き・外向き」「社会で生きる本物の自立心」「企業家・企業精神の育成」「地域を愛する・守る意味を知る」「決断する人生」を学ぶためにスタートした。

授業は大学での経営体験報告とグループ討論、企業訪問、例会の参加で構成され、東日本大震災以降は毎年

陸前高田を訪れています。地域を守るとは何か。業がないと人は流失するわけで、やらなければならないという経営者に触れています。その中で学生は考え方が変化し、チャレンジ・成長する大切さを感じ、自分で進路を決めて社会人となっていると報告しました。

さらに世界をよくしようと学ぶ人が変えていく。創造性を発揮するには大きな目的が必要で、同友会にはそろっていると「100年後を考えて私達はやっている。同友会の理念経営に共感する方、同友会に触れて人生を選ぶ人、そういう人が百年後、千年後を変えていく。学生が変わっていく中で震災復興をライフワークにし、一生被災地と付き合っって新しい価値を生みたいと思っている。そういう姿勢を頂いたのが同友会。皆さんの姿からです。今の姿勢を貫き、価値を生み出し続けて欲しい」と述べました。



第20回置賜支部総会

原点回帰 共に学び実践し三つの目的をめざそう



第20回置賜支部総会が5月19日に開かれました。会場となった招湯苑には31名が集いました。

第1部の総会では2015年度活動報告が承認された後、役員11名が選出され、新支部長に佐藤松雄氏、副支部長に八代昌弘氏、加賀久也氏、庄司薫氏が決まりました。

続いて佐藤新支部長が「よい会社、よい経営者、よい経営環境の実現のため、共に学び合い、実践しよう!!」を

◆ 支部総会報告 ◆

スローガンに「①これからの変化に対応できる強い企業づくりをしよう②同友会での学び合いで見聞を広め、経営者としての資質を高めよう③地域に根ざした企業を目指し、地域に必要とされる支部づくりをしよう」という2016年度方針を提案し、満場一致の拍手で承認されました。

第2部の記念講演は「これからの変化に対応できる強い企業づくり～中小企業を取り巻く情勢をふまえて～」をテーマに、池田泰秋氏(中同協事務局次長 新潟同友会理事・事務局長)が講演しました。

池田氏は「危険と機会で危機。危機には見える危機、じわじわ来る危機、確実に来る危機がある。まずは見える未来をしっかりと認識していこう」と語りました。そして、人口からは確実に未来が見えるとし、人口が減少していく中での課題として若者を地域に残すこと、

2017年に団塊の世代が70歳となり事業承継・技術承継を進めること、募集しても人が来ない求人難を挙げました。その上で、これから人事戦略が重要となってくることから年齢組織表の作成をすすめました。

さらに同友会らしい強靱な経営体質をめざすためには、労使見解の精神が入った経営指針づくりが大切に計画を立て成果を出すことを強調。「財務計画は内部留保・自己資本比率の目標を設定して取り組む」「付加価値を高めるために値段を上げる方法を考える」「日本の殆どの業界が縮小する中でビジネスモデルを考える」「BCP計画も大切で売上がゼロ、半分になった場合のシミュレーションをしながら経営指針をつくる」といったことを提起しました。池田氏は「マインドが大事で失敗しても大きなチャンスをつかむ風土づくりが大切」と、まとめました。

第12回庄内支部総会

同友会の活動で共に語り合い成長しよう



5月27日、第12回庄内支部総会が鶴岡市グランドエル・サンにおいて開催されました。

第1部の総会では2015年度の活動報告が行われた後、新たに6名を加えた17名の支部幹事を選出。その先頭に立つ新支部長には工藤規行氏、副支部長には板垣一紀氏・小寺祐也氏、伊藤雄一郎氏、そして新しい試みとして歴代支部長を「相談役」と位置付け、「学びの

場」としての更なる質の向上を目指します。

2016年度の方針としては、「～経営の“サロン”から“勉強の場”へ～ 同友会の活動で共に語り合い成長しよう」のスローガンと、3つの委員会、2つのプロジェクトチームを作り、「よい企業づくり・よい地域づくり・よい仲間づくり・よい経営者になろう・仲間を増やそう」のテーマが決まりました。

第2部の記念講演では、酒田市でファミリー・カイロプラクティックを経営する小野弘志氏を招き、「ペップトークがビジネスを変える～魂をゆさぶる背中の一押し～」と題し講演しました。

「ペップトーク」とは、アメリカでスポーツなどの試合前に入れる「檄」のことです。小野氏は前向きな言葉を「ポジティブ語」、後ろ向きの言葉を「ネガティブ語」とし、なるべくポジティブ語を使っていきましょうと述べました。「日本人はネガティブ語が多いが、信頼関係があればネガティブ語も成立する。ただ、信頼を築くことは簡単な

ことではない」と語ります。

また、ペップトークの具体的な取り組みとして、4つの段階①相手の今を受け入れる。②何事もプラスにとらえる「とらえ方変換」③否定形を使わない「してほしい変換」④背中の一押し「ペップトーク」を紹介しました。

ペップトークはコミュニケーション術かと思いき

や、一つひとつをひも解いていくと「労使見解」に共通する所が多くありました。それぞれの存在意義を受け入れ、共に成長しながらゴールを目指す。このペップトークはスポーツだけでなくビジネスにも当てはまることを学びました。

その後行われた第3部の記念講演も大盛会の内に幕を閉じました。

第2回新庄最上支部総会

企業経営の課題を共に考え解決し、 地域の発展につなげていこう！



5月19日、第2回新庄最上支部総会が、新庄市のニューグランドホテルで開催され、支部会員を中心に他支部、社員、金融機関合わせて24名が参加しました。

第1部の総会では2015年度の活動報告が行われた後、新たに2名を加えた8名の支部幹事を選出。2016年度の方針としては、「企業経営の課題を共に考え解決し、地域の発展につなげていこう！」のスローガンと、企業づくり・支部づくり・地域づくりの3つの重点方針が決定しました。

第2部の記念講演では、岩手県中小企業家同友会代表理事の(株)高田自動車学校 代表取締役社長 田村満氏を招き、「経営を共に考える」と題し講演しました。

田村社長は自身が入社と同じ時期に立ち上がった労

働組合と向き合った日々や、東日本大震災時に「物資供給センター」「自社重機の貸し出し」をして地域を支えた経験を語りました。

また、震災当時、「売り上げが0になっても雇用は守る」と社員と約束し、同友会を中心にした地域の経営者で、企業存続へ向け団結したなどの事例から内部環境や外部環境の不測の事態にも対応していける強靱な経営体質が必要だと強調しました。

田村社長は、高田自動車学校のビジョンとして「小さな一流企業」を紹介。それを実行するために社員の家族の豊かな暮らしと、家族が働いていることに誇りをもってもらえる企業を目指している。また、それを実行するためにはとして、生物学者チャールズ・ダーウィンの言葉を例にし、「経営者として環境に適應できる会社にしていかなければならない」と述べました。

終盤、新庄市の人口動態を引き合いにだし、新庄市に山形新幹線が開通した平成12年から人口減少率が高まっている点を指摘し、「これをどう受け止め、どう向き合っていくか。同友会の仲間が結束して本気で向きあっていただきたい」と激励しました。

第3部の懇親会は柴田支部長の挨拶と西塔代表の乾杯と共に祝宴が始まり、大盛会の内に終了しました。

おらだもエネルギーしてみっか

～エネルギー自由化元年、エネルギーシフトを学ぶのは今!!～



6月10日、食・農部会主催のエネルギー学習会が山形ビッグウイングで開催され、会員や社員、山形大学の学生をあわせて23名が参加。

第4回目となる今回は「おらだもエネルギーしてみっか」シリーズとして、「エネルギー自由化元年、エネルギーシフトを学ぶのは今!!」をテーマとし、山形同友会の自然エネルギースペシャリスト(株)ソーラーワールド武内社長が講義しました。

開会では齊加新部会長が、「海外から輸入される食材の値段はここ数年で2倍以上になり、世界での食糧争奪戦はすでに始まっている。農業者や中小企業家がこの自然エネルギーを事業と捉え、飽食から豊食にしていくべく、食・農部会が架け橋となっていきたい」と熱く挨拶しました。

エネルギーシフトは中小企業の決意！

武内社長は冒頭、「中同協がエネルギーシフトを基本方針とし、『中小企業家エネルギー宣言(案)』を公表したことに中小企業の責任と決意を感じる。この宣言の最大の特徴は、私がかぎり経済団体として唯一、『脱原発』を謳っている。この言葉を入れることに賛否あったと聞いているが、人類に打撃を与えるものを変えていこうと思う人が同友会にいて、これからのエネルギー産業の未来は明るいと感じます」と述べました。

講義の前半はこれまでの学習会の復習を兼ね、山形県は自然エネルギーの宝庫であり、まずは本業を支えるビジネスとして自然エネルギーに取り組むことを勧めました。武内社長は自然エネルギーを「電力供給」「生活(企業)スタイル」「世界平和」の3つの柱で捉え、この中の身近に感じるところから再生可能エネルギーを考えるきっかけとしてほしい。また地域社会の継続は、農とエネルギーをからませることで存続可能なものになると提案しました。

エネルギーを知ろう、できることからやってみよう！

更に、「エネルギーはどこで作られているかを、もう一度きちっと考える必要がある」と問題を提起しました。身近に感じない所に現在のエネルギー問題が隠れている。国も新エネルギーを普及させ、国内の経済を活性化しようとしている。また、山形県は原発の電力を使っておらず、日本としても原発に頼らない社会ができつつある。中小企業のエネルギー産業参入が重要であり、参入には「発電所をもつ」「燃料を売る」「新電力に切り替える」がある。簡単にできるのが「新電力に切り替える」だが、電力自由化といってもまだ山形県は選択肢が少ない状況。だが現状把握は必要で、東北電力で自社の状況を確認し、省エネにつながる選択をすることをポイントとして挙げました。

先進国が目指すもの

先進国のエネルギーシフトへの考えは、出ていくお金を地域で消費するというもの。省エネ・創エネをすることで「産業をつくる」「仕事をつくる」「雇用をつくる」に結びつけている。ドイツでは昨年の自然エネルギー事業で37万人の雇用を生み出している。対する化石燃料・原子力燃料は7万人にとどまっている。今、「与えられるエネルギー」から「自分たちであみだすエネルギー」の時代になってきた。その取り組みで雇用を生み出せるのは、まさに中小企業だからできること。自然エネルギーに取り組み、そこから雇用を生み出すことが現実になってきた。山形同友会でも何ができるかを考えていかなければならないと思います。

3.11から何を学ぶのか？

東日本大震災での原発事故を起こしたのは、国だけの責任ではありません。使っていた私たちも責任があるといえるでしょう。ですから今後使うエネルギーを、文明・文化との観点から未来を考え行動すべきです。行動するのは誰でしょうか？市民もそうですが中小企業家が率先して進まなければならないと思います。と締めくくりました。



7月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

山形支部

危機感から生まれた付加価値商品と市場開拓

2016.7.21 (木) 18:30~21:00

場所：山形ビッグウイング 4階 研修室
山形市平久保100 ☎023-635-3100

報告者：(有)半澤鶏卵 代表取締役 半澤清彦氏

物価の優等生といわれる卵。その裏側では激しい価格競争が繰り広げられています。

卵の卸業だけでは先がない。危機感をもった半澤社長は付加価値のある商品づくりに力を入れ、誕生したのが「スモッチ」。10年前、地元での販売から始まり新幹線の車内販売。そして県外のお客さんを開拓してきました。今、家庭画報のお取り寄せ通販では6年連続1位となるまで認知度は上がっています。山形支部7月例会では半澤社長の報告をもとに、付加価値商品づくりと市場開拓を考え合います。

○グループ討論テーマ 「市場・顧客の変化とニーズに気づいていますか？」

寒河江支部

ビアパーティー

2016.7.21 (木) 19:00~

場所：陣屋六兵衛
寒河江市本町2-1-53 ☎0237-86-4657

参加費：4,000円

寒河江支部7月例会は、毎年恒例のビアパーティーです。同友会には「よい会社になりたい」「地域を元気にしたい」という思いを持っている方々がたくさんいます。顔を合わせれば、声を掛け合える仲間がいます。「今後の方向性」「社員の雇用や教育」「業界のこと」「課題」など、日頃考えていることを冷たいビールを飲みながらざっくばらんに語り合しましょう。何気ない会話の中に明日へのヒントがあります。ゲスト参加も大歓迎!お誘い合わせの上、ご参加ください。

さくらんぼ支部

若者が地域で輝くには ~あなたの会社の10年後はどうなっていますか~

2016.7.27 (水) 18:30~21:00

場所：さくらんぼタントクルセンター ミーティングルーム
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：天童高等学校 教諭 東海林啓氏

高校卒業後、大学等への進学率がアップしています。平成27年3月の高校卒業生10632名の内3492名が進学、691名が就職によって県外へという統計が出ています。さらに、ここ数年は募集しても人が来ない採用難の時代、労働人口の減少も予測されています。さらに、厚労省の調査では新規学卒者(平成24年3月卒)の3年以内の離職率が高校卒業生は40.0%、大学卒業生は32.3%です。

人口減少社会にあって若者を地域に残すことは、企業だけではなく地域の大きな課題です。若い人をどう採用し、定着させていくのか。東海林先生より高校生の職業観や取り組みなどをお話いただき、一緒に考え合います。

置賜支部

ビアパーティー

2016.7.27 (水) 18:30~

場所：なみかた羊肉店
米沢市東2丁目1-30 ☎0238-24-6887

参加費：4,500円

会員同士がつながりを深め、顔と企業が見える支部をめざし、7月例会はビアパーティーを行います。

ビアパーティーはお互いを知り合い、交流を深める絶好の機会です。

経営者の熱い思いが企業と地域の未来を切り拓く鍵です。明日の経営の種を持ち帰りましょう。どなたでも参加できます。お誘い合わせの上、ご参加ください。

庄内支部

経営指針成文化と実践の重要性を もう一度考えよう

2016.7.28(木) 18:30~

場所：鶴岡市総合保険福祉センター「にこ♥ふる」
鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

報告者：(株)五勇組 代表取締役 五十嵐俊氏
(株)ニシカワ鶴岡工場 製造部部长 庄司良作氏
(株)ニシカワ三川工場 製造部次長 富樫 涉氏

7月例会は、今年度の「経営指針をつくる会」を受講中の(株)五勇組 代表取締役 五十嵐俊氏、(株)ニシカワ製造部長 庄司良作氏、同じく製造部次長 富樫 涉氏から、現時点の気づきや学びを報告いただきます。経営指針っていったいどういうものなのか、受講して何が変わったのか変わりつつあるのかなど、それぞれの感じたままの報告に経営のヒントをつかみます。また、経営指針、経営理念は自社の存在意義または今後どう継続・発展していくかを示す重要なものです。「理念とはどういうものか知りたい」「作ってみたい」とお考えの方にはチャンスかと思えます。今回は受講生3名へ、素晴らしい指針を作り、卒業することへのエールの意味も込めた例会です。是非ご参加ください。

新庄最上支部

しあわせに引き継ぐ ~相続から事業承継まで~

2016.7.25 (月) 18:30~

場所：新庄市民プラザ
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者：柴田事務所 所長 柴田慶一氏 (新庄最上支部長)

7月例会は、新庄最上支部長の柴田事務所 所長 柴田慶一氏の講演となります。今回は司法書士の目線で、相続から事業承継まで柴田所長が目当たりしてきたトラブルを事例に、巻き込まれないコツや心構えをわかりやすく学べる内容となっています。相続は普段あまり感じる事のないものですが必ず通ることですし、経営者ともなれば事業承継は悩みのタネになる企業は少なくありません。是非この機会に一緒に学び合しましょう。

第2回理事会報告

◆日時:2016年6月6日(月)午後3時~午後5時 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:菅原代表理事
◆出席者(敬称略):川合勝芳、西塔秀幸、菅原茂秋、越前屋忍、青柳等、阿部和人、小林敏郎、玉津弘之、白鳥明美、伊藤誠、阿部敦、若木義寛、佐藤松雄、庄司薫、工藤規行、武内賢二、斎藤源、(事務局)矢作聖子、高橋徹 19名出席

■開会挨拶

西塔代表理事が「6月で三ヶ月目に入りましたが、会員数の方は減り気味で停滞しています。これから本格的に進んでいきます。また、今後理事の経営実践の報告をしていきたいと思っております。それと、新しくなった『同友会運動発展のために』をぜひ読んでください」と述べました。

■報告事項

1)緊急時の体制について

想定される危機状況について、BCPプランに落とし込んだ組織図など、常任理事会にて2~3ヶ月かけてプランを作成し、理事会に提案する予定。(菅原代表理事)

2)中期ビジョン作成委員会

中期ビジョンも本格的に動き出す時期になり、メンバーの方へ協力依頼がありました。(西塔代表理事)

常任理事:西塔氏、菅原氏、後藤氏、越前屋氏、齋藤氏
委員長・部会長:菊池氏、阿部氏、玉津氏、赤塚氏、齊加氏
支部:阿部氏(山形)、武内氏(さくらんぼ)
寒河江・置賜・庄内・新庄最上は今週からの幹事会で人選。

3)平成28年熊本地震の義援金の中間報告

現在313,245円が寄せられた報告と協力のお願がありました。(西塔代表理事)

4)共同求人委員会

・春の合同企業説明会(5/13) 企業24社 学生22名
進路関係者3名 参加
県外の学生も参加。学生のアンケートでは「地域の中小企業について知ることができた」「東京の企業だけを見てきたが山形に1ターンしようかと思う」といった声をいただいた。学生を集める取り組みを強化する必要がある。(玉津理事)

・山形大学低学年インターンシップ 34名受講

山形大学より8/9~9/23の期間中に3日間インターンシップのお願いがあり、今年度は34名の学生が参加する。また、7/13には「中小企業への理解を深める」講座の講師依頼があり、共同求人委員会でも人選する予定。(玉津理事)

5)社員共育委員会

2016年度幹部社員研修

7/20 第1講 於:山形ビッグウイング

9/21 第2講 於:山形ビッグウイング

昨年までの企業変革支援プログラム「人を生かす経営の実践」の項目に、今年は「経営理念を実現する過程」も加えて課題を抽出し課題解決に向かう内容。参加企業には研修用フォーマットで事前に経営指針・社員共育の側面から課題を見つけて解決策をある程度導き出した上で研修に参加する形になる。(阿部理事)

6)地域活性委員会

中小企業憲章・条例学習会 7/26 13:30~17:00

「中小企業振興基本条例で地域と中小企業を元気に~条例の意義と役割~」

講師:慶應義塾大学 経済学部教授 植田浩史氏
開催要項を説明し、今年度は各支部で条例の意義の理解と参加呼びかけのお願いがありました。また、翌日には植田教授が企業訪問をする予定で現在訪問先を委員会で選定している。(越前屋副代表理事)

7)2016年度5月度月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認)

入会者2名、退会者4名 6/6現在 443名

■討議事項

議題1:第32回定時総会のまとめ

■提案:高橋実行委員長

高橋実行委員長より第32回定時総会の総括(特徴・次年度への課題)と収支の報告があり、承認されました。

議題2:2016年度役員研修会について

青柳理事より当日スケジュールとグループ討論テーマ等が提案され、組織委員会から増強の意義が役員に深まる研修会にして欲しいとの要望が出されました。提案のスケジュールで案内し、増強の要望については実行委員会で検討していくことになりました。

議題3:ネット会議に関する件

菅原代表理事が集音マイクの必要数を調べるため本日の会議でマイクのテストをしていること、スカイプより他のシステムの方が質的にいいという提案をいただき、それを使える形にするためには前回の予算から増えることを説明しました。

各エリア拠点にて環境テストをしながらシステムについては再度検討し、予算も削減しながら進めていくことになりました。また、事務局内でも使用するため光回線にし、アクセスポイントを入れて環境を整備することになりました。

議題4:組織委員会より

菅原代表理事が「経営者として地域づくりも兼ねて環境を良くする活動をしている同友会なのに増強という言葉が出るとトーンダウンするのはなぜか。役員研修会や理事会で議論する場をつくり、増強の意義やなぜ増強の取り組みをするかを腹に落した活動を求めたい」と増強の意義について問題提起しました。

今後、牽引役の理事がまとまって進んでいくために、理事会の場でも増強について率直な意見を出しあい、増強について学んでいくことになりました。

■その他

1)2016中同協・中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会・拡大憲章・条例推進本部会議

●日時:6月7日(火)13:00~18:30 ●会場:衆議院第1議員会館

2)中同協第5回幹事会

●日時:6月8日(水)13:00~17:00

●会場:T K P市ヶ谷カンファレンスセンター

3)山形労働局来局 「高校生の就職に関する件」

●日時:6月8日(水)午前

4)第7回きらやか銀行経営者セミナー

●日時:6月9日(木) 来賓として西塔代表理事出席

5)中同協第48回定時総会

●日時:7月14日(木)~15日(金) ●場所:大阪 ●目標:10名

6)北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会

●日時:8月30日(火)~31日(水) ●場所:岩手

7)第3回理事会日程

●日時:7月13日(水)午後3時~午後5時

●会場:山形県産業創造支援センター

■閉会挨拶

小林理事が「学生の就職希望が少なく、人はどこにいったのかと思う。景気が良いとは言えないのに企業は人が欲しい。自社の経営をもう一度見直す機会として人の問題を捉えていければ考えることが出てくるのではないかと思う」と述べました。

会員名変更

●株アベニュー 専務取締役 関 純氏(置賜支部)

→リーダー 原田 雄基氏(山形支部)

●未来工業(株)山形工場 工場長 小林一郎氏

→ 桐山 寛氏

新会員紹介

◎大滝 利勝氏

合同会社YCS 代表社員
新電力代理店、電気工事、
設備メンテナンス
山形支部

◎堀米 浩之氏

天口会計事務所 監査部長
会計事務所
寒河江支部

同友やまがた7月号(2016年7月1日発行/通巻280号)

From Editor



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp